

# 大田区観光案内サイン計画

平成 22 年 1 月

大 田 区

## はじめに

2010年10月の羽田空港国際化により、空港の利用者がさらに増加します。地域の活性化のためには、この機を捉え、地域の魅力を発掘し、来訪者にアピールする等観光にも積極的に取り組んでいく必要があります。

平成21年3月大田区は、大田区10か年基本計画『おおた未来プラン10年』を策定し、その中で、大田区のまちづくりは、「地域力」「国際都市」がキーワードであるとし、大田区の観光を世界に発信するため、ユニバーサルデザインの視点とともに大田区の魅力をアピールするため観光の視点も加えて「誰にもわかりやすいサイン整備」を進めることをうたっています。

さらに平成21年3月、『大田区観光振興プラン』を策定、「“知る人ぞ知る魅力”を大切に世界とつながる生活観光都市」を目指す中で、「快適回遊と交通ネットワークを整える」を基本戦略の一つに掲げ、区民はもとより、来訪者が快適に回遊できるよう、案内サイン・誘導サインの充実を目指しています。

平成21年9月には、『大田区サイン基本計画』を策定し、直ちに取り組む必要があるサイン整備を進めるとともに、長期的に取り組むサイン整備の方向性と事業計画を示しました。この中で、関係する各所管部局にて、大田区の魅力を高めるサインの整備を進め、区民や観光で大田区を訪れる人が、快適に区内を回遊できる環境を整備し、大田区の魅力を高めるサイン整備を進めることを掲げています。

本計画は、以上の上位計画をふまえ、観光資源を案内するサインの整備方針等を提案し、示すものです。

## 目 次

はじめに

1. 計画の位置づけと役割.....	1
1.1 目的と位置づけ.....	1
1.2 本計画の基本的な考え方.....	2
1.3 本計画の検討モデルエリア.....	8
1.4 モニター調査の実施とその反映.....	10
2. 大田区観光案内サインの現状と課題.....	11
2.1 大田区の観光資源.....	11
2.2 サインの現状と課題.....	13
3. 観光案内サイン整備方針.....	18
3.1 基本事項.....	18
3.2 整備方針.....	20
4. 観光案内サイン整備計画.....	32
4.1 デザイン仕様.....	32
4.2 ケーススタディ.....	41
5. 維持管理.....	45

# 1. 計画の位置づけと役割

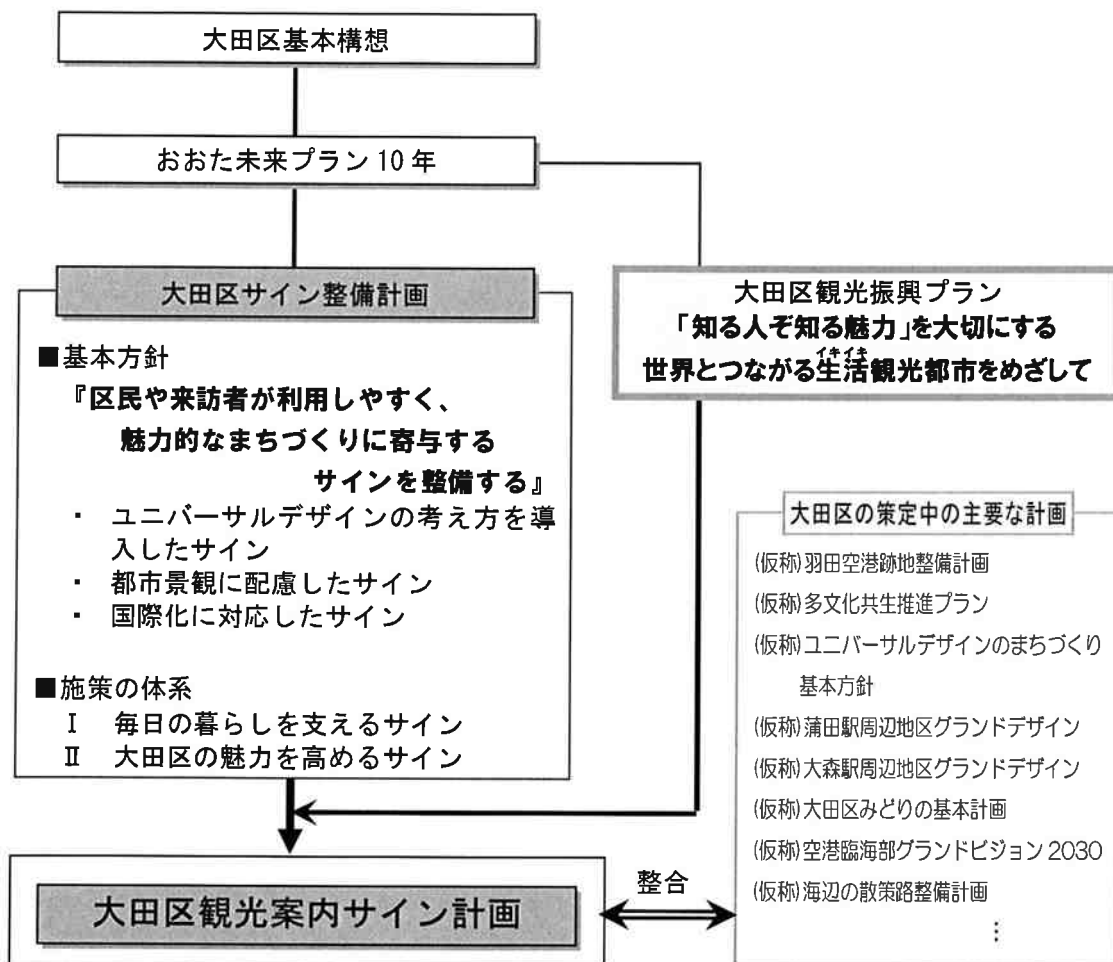
## 1.1 目的と位置づけ

「大田区観光案内サイン計画」は、平成20年度に策定された「大田区観光振興プラン」の基本戦略の一つである「快適回遊と交通ネットワークを整える」に基づき、観光情報を提供する案内サイン・誘導サインの充実を図り、区民はもとより、来訪者が快適に区内を回遊できる環境を整えることを目的に策定します。

### 【計画の位置づけ(体系)】

本計画は、「おおた未来プラン10年」等の上位計画を踏まえ、「大田区サイン基本計画」における『大田区の魅力を高める観光案内サイン』の具体的実施計画を立案するものです(図1)。

図1 本計画の位置づけ



## 1.2 本計画の基本的な考え方

### (1) 観光案内サインとは

本計画の対象とする観光案内サインとは、大田区内の観光資源を訪れる人が、快適に区内を回遊できるよう、来訪者を誘導・案内するためのサインです。

大田区内の観光資源とは、「大田区の観光に関する基本調査」(平成20年8月)にて報告されており、「大田区観光振興プラン」にて観光資源として分類定義されているものが中心となります。

また、本計画の来訪者には、区外からの来訪者だけでなく、区民が自らの日常的居住エリアを超えて区内の観光資源等を来訪する場合の「区民」も含むものとします。

本計画は、「大田区サイン基本計画」の「Ⅱ 大田区の魅力を高めるサイン」の中の「1 回遊性を高めるサイン」として位置づけられます(図2)。

計画実施に際しては、「2 潤い・やすらぎ空間のサイン」、「3 歴史・文化を支えるサイン」に含まれる計画との連携を図りながら進めていきます。

図2 本計画の対象サインの位置づけ

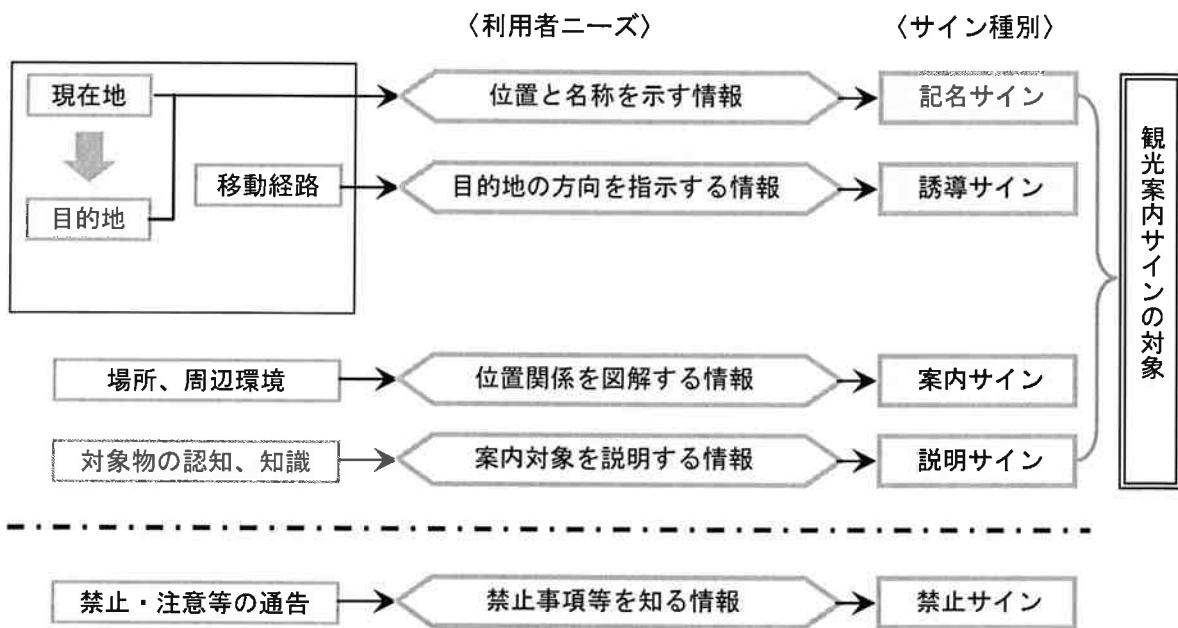
1 回遊性を高めるサイン		
計画事業名	観光案内サインの整備	産業経済部
2 潤い・やすらぎ空間のサイン		
計画事業名	呑川緑道散策路のサイン整備	都市基盤整備部
	桜のプロム等のサイン整備	都市基盤整備部
	自然観察路案内板のリニューアル	環境清掃部
3 歴史・文化を支えるサイン		
計画事業名	大田区指定文化財標識のリニューアル	教育総務部
	地域資源の活用を目指したサインのリニュー	都市基盤整備部
	アル	教育総務部

注) 大田区サイン基本計画より抜粋(「Ⅱ 大田区の魅力を高めるサイン」の体系図)

(2) サインの種別

本計画の観光案内サインは、記名サイン、誘導サイン、案内サイン、説明サインの4種類のサインを検討対象とします(図3)。なお、禁止サインは観光案内とは直接的に関係しませんが、来訪者にとってはサイン群の一つと認識されることから、上記4種類のサインと一体的に見た場合の現状と課題を整理しました。

図3 本計画の対象サイン(種別)



- ◇記名サイン：位置、地名および観光資源等の名称を示すもの(写真1)
- ◇誘導サイン：利用者が目的地まで円滑に移動できるよう経路、方向を示すもの(写真2)
- ◇案内サイン：地図を用いて現在地と周辺環境との位置関係を示すもの(特に案内サインの内、地図部分を「案内地図」と呼ぶ)(写真3)
- ◇説明サイン：観光資源等の案内対象を解説するもの(写真4)



写真1 記名サイン  
(白田坂・本蒲田公園)



写真2 誘導サイン  
(蒲田駅周辺)



写真3 案内サイン  
(蒲田駅周辺)



写真4 説明サイン  
(日蓮聖人坐像)

(3) 本計画を推進していくための基本的な考え方

本計画を推進していくための基本的な考え方をまとめると以下のとおりです。

- ・ 「できること」から進めていきます。
- ・ 「できるところ」、「必要性の高いところ」等の用件を総合的に判断して、大田区全域からサイン整備を推進するエリアを選定して進めていきます。
- ・ 地域性を考慮して推進します。
- ・ 区民のみなさんと協働して推進していきます。
- ・ ハードとソフトの連携を図ります。
- ・ 観光関係部局だけでなく、各部局においても本計画を推進します。

基本的な考え方について、詳しく整理すると以下のとおりです。

1) 計画対象エリアについて

本計画の策定にあたっては、検討モデルエリアを設定して、観光案内サインの現状、課題、モニター調査等を実施しました（1.3～2.2 参照）。モデルエリアの選定については、P.8 に示した考え方のおりです。

大田区観光振興プランでは、「大田区は、東京・首都圏の空の玄関口である羽田空港を擁するとともに、池上本門寺や馬込文士村等の歴史・文化的な環境、多摩川や臨海部の水環境、身近で特徴的な公園・レクリエーション資源等が豊かな地域です。」としています。こうした資源は、区内の各所に存在しています。

観光案内サインは、前述の観光資源を中心に案内していくことが主たる目的になります。観光資源は、本計画の検討モデルエリアにのみ存在しているわけではありませんので、本計画は、検討モデルエリアを含む区内全域に適用されます。

従って、観光案内サインを設置する際には、大田区のどの地域であっても本計画が対象となるものです。

2) 計画を促進させるために

大田区全域で一斉に計画を推進することが望ましい姿ですが、財政的な要件、他の計画等の関係、地域との調整等が必要な場合もあり、一定程度の時間を要しながら進めていくことが現実的です。

その際は、可能なところから、本計画に沿って、観光案内サインを設置していくことが、計画を促進させることにつながります。

### 3) サイン整備推進エリアの選定

- ①大田区全域で本計画を同時に推進することが理想ですが、それが困難な場合は、各要件を検討しながら区内の特定の地域や特定の地点から計画を推進します。
- ②選定対象は、本計画の検討モデルエリアに限らず、区内全域から選定します。
- ③条件の異なる複数のエリアを選定することも想定されます。

### 4) エリア内でのサインの設置順序

- ①本計画では、大拠点、中拠点、小拠点それぞれに相応しい観光案内サインを設置し、その連携によって効果的な案内を進めていくこととしています（P.40 参照）。しかしながら、大・中・小を同時に設置していくことが困難である場合には、大拠点のサイン設置を優先することとします。
- ②地域の実情を考慮しながら柔軟な対応をしていきます。

### 5) デザイン

本計画に沿ってサイン整備を進めていきますが、地域の実情に合わせて、色彩、デザイン等は柔軟に対応していきます。

### 6) 計画の推進に当たって

本計画の推進に当たっては、区民の方々、関係機関と協力して進めていきます。行政内部においては、定期的に連絡会等を開催する等、関係機関との連携を密にして推進していきます。また、各部局においても、観光に関係するサインの整備等（新規設置やこれまでの案内サイン、誘導サインのリニューアルなど）をする際は、本計画を活用して、当該部局が主体となって観光関係部局と連携してサイン整備を推進していきます。

### 7) ハードとソフトの連携

本計画では、看板という「ハード」だけで来訪者への案内機能を満足させようというわけではありません。地域の方々による「人」による案内、地域の方々に気軽に来訪者が「聞ける」ような地域になることが重要です。区民の皆さん一人お一人が、「サイン」に他なりません。

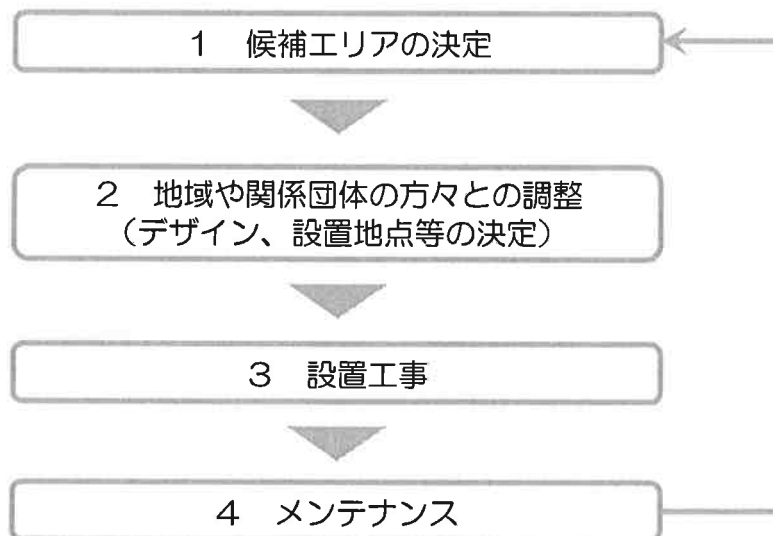
財政的な裏づけが必要となる「ハード」なサインの設置のみでなく、人による案内や地図やWEB等他の媒体による「ソフト」なサインとの連携を図りながら本計画を進めていきます。



(4) 観光案内サインを設置等していくための基本的な流れ

本計画に基づき、区内に観光案内サインを設置等していく際の基本的な流れは、以下（図 4）に示す手順を原則に、時代背景、地域性を考慮しながら進めていくこととします。

図 4 観光案内サイン設置の標準的な手順（サイクル）



留意点

1) 観光案内サインの整備推進エリアの決定

本計画に基づき、大田区全域で観光案内サインを一斉に整備していくことが望ましいのはいうまでもありません。しかし、限られた予算の中で整備していくためには、より効率的、効果的に計画を進めていく必要があります。

そこで、表 1 のような要件を総合的に判断して、区内のどの地域に観光案内サインを整備するかを決め、候補地とします。

2) デザインや設置地点等の決定

デザイン案、設置箇所等の素案を提示し、地域の方々と検討しながら決定します。（地域の方々＝エリア内の自治会町会、商店会、また地域で「まちづくり活動等」をされているの方々等です。）

3) 関係機関との連携

道路設置者をはじめとした国、都等の関係機関と連携を図りながら進めます。特に、東京都の「東京ひとり歩きサイン計画」は、本計画と趣旨を同じくすることから、これと連携したサイン整備が望まれます。

また、区役所内の各関係部署との連携を取りながら進めていきます。



4) サイクルの期間

候補エリアの決定からメンテナンスに至るまでの標準的な期間は、各関係機関等との連携と調整を十分に行なうこと、財政的な裏づけがない段階での標準的な期間の設定には、現実的な意味がないことから、設定しないこととします。

表 1 観光案内サイン設置エリアチェックシート (例)

選定要件  エリア	庁内他部局の計画との関連性	空港国際化との関連性	既存サインの状況	来訪者数の多寡 (最寄り駅の乗降客数等)	観光ルートとしての確立性 (ルートマップの有無)	観光資源としての認知度の高さ (区民)	観光資源としての認知度の高さ (区民以外)	まちづくり活動をしている団体の多寡	法律・条例・警察等との関連性 (設置のしやすさ)	. . .	総合 (評価)
○○駅周辺											
△△周辺											
××周辺											
⋮											
⋮											

### 1.3 本計画の検討モデルエリア

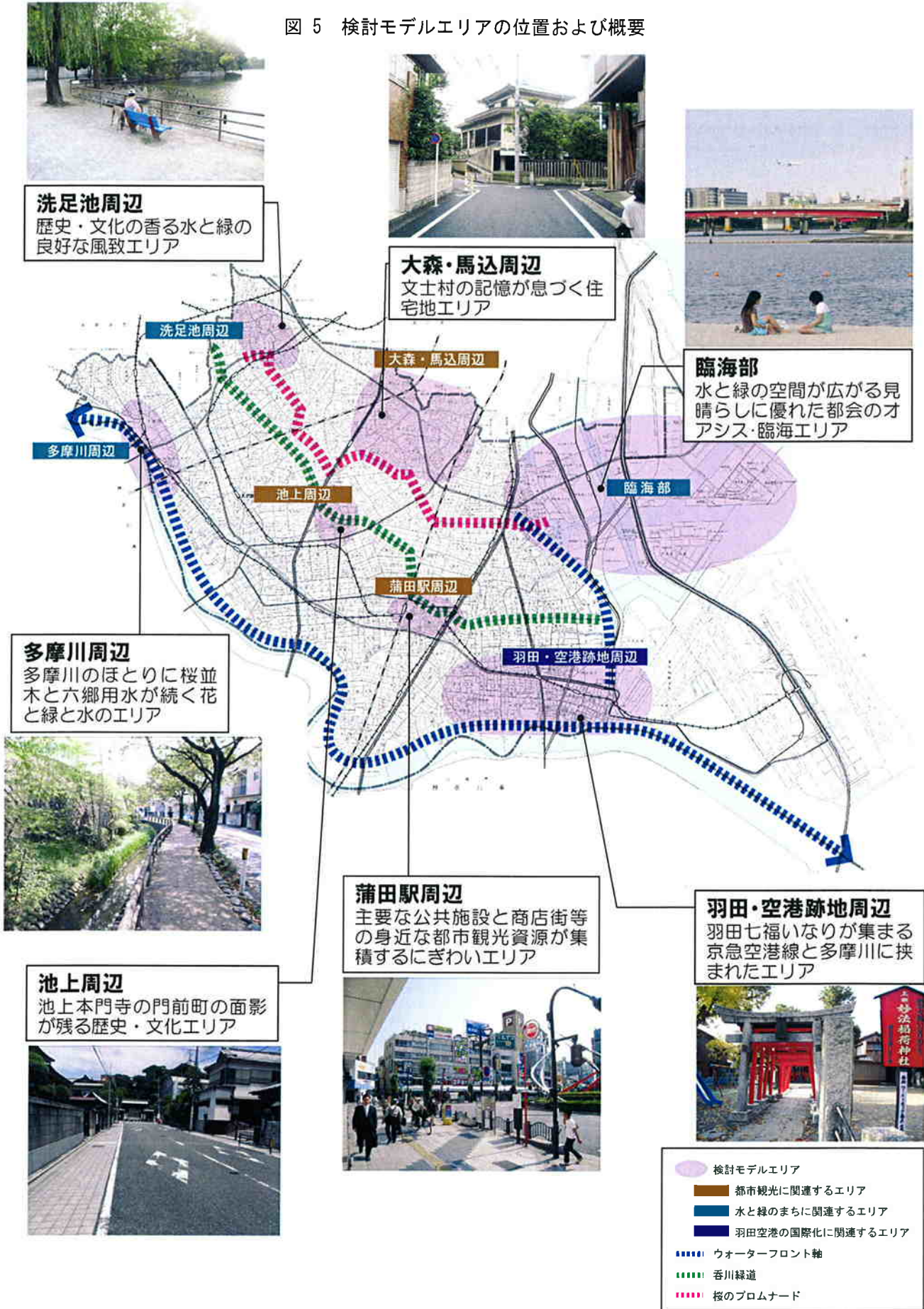
区全体の観光案内サイン計画の検討にあたり、モデル検討を行うエリアとして「蒲田駅周辺」「大森・馬込周辺」「池上周辺」「洗足池周辺」「多摩川周辺」「臨海部」「羽田・空港跡地周辺」の7エリアを設定し(図 5)、区内全域に方針を反映することとしました。この7エリアは、すべてすぐに整備するというものではなく、本計画策定のために重点的に調査し検討するモデルエリアです。

#### <7 エリアを設定した理由>

『大田区観光振興プラン』を着実に推進するにあたって、特に事業として重要性が高く、他の事業に優先して迅速に取り組むべきものを選定し、『大田区観光振興プラン推進のための重点計画』(平成21年3月)としてまとめています。その事業推進に沿うように、モデルエリアを選定しました。

- 大森と蒲田を拠点とした都市観光への取り組み  
・・・「蒲田駅周辺」「大森・馬込周辺」「池上周辺」
- 水と緑のまち大田区を楽しむ仕組みづくり  
・・・「洗足池周辺」「多摩川周辺」「臨海部」
- 羽田空港の国際化に対応する仕組みづくり  
・・・「羽田・空港跡地周辺」

図 5 検討モデルエリアの位置および概要





## 1.4 モニター調査の実施とその反映

7つの検討モデルエリアのうち、最寄り駅の利用者数が突出して多い蒲田駅周辺と大森・馬込周辺の2つのエリアを対象として、区民参加のモニター調査を実施して来訪者およびもてなす側の両視点からの計画検討を行いました。

### 既設サインへの意見

- デザインがばらばらに乱立し、来訪者をもてなす気遣いが欠如している。
- 多様な利用者に配慮した地図や文字の仕様になっていない。
- 情報の過不足が目立つ。観光マップ等との適切なすみ分けが必要。
- 区民の力を活かしたソフトの観光案内が重要である。

### 整備方針への反映事項

デザインの統一やユニバーサルデザインの導入、情報のすみ分けと連携、区民との協働等の視点から、現状と課題の整理および整備方針の設定を行った。

### 新設するサインへの意見

- 駅前等は必ずしも現在地が地図の中心である必要はない。
- 誘導している施設までの距離がわかるようにしてほしい。
- 羽根型の誘導サインは、安全性や視認性の面から、歩道のない場所には向かない。
- 幼児等がケガをしないように、角のないデザインにしてほしい。

### 整備計画(デザイン仕様)への反映事項

サインの設置場所に応じた地図の表示範囲の設定の考え方を整備方針に盛り込んだ。また、基本のデザイン・タイプとして、誘導施設名に距離表示が併記され、角のない安全性に配慮した仕様を整備計画に示した。なお、誘導専用のサインについては、羽根型と合わせて路面表示型のデザイン・タイプも参考提示した。

【第1回モニター調査】既存サインの現状と課題について意見交換しました。



まち歩きしながら既設サインの点検を行った後、室内にて既設サインの問題点や観光案内サインの課題について、ハードとソフトの両面から様々な意見が出されました。

【第2回モニター調査】新設するサインの仕様等について意見交換しました。



第1回モニター調査の意見を踏まえて作製した新しいサインの実物大模型を現地に設置し、デザインや表示内容の他、区民の今後の関わり方等についての具体的な意見が出されました。